

# 心の傷 長期的なケアを

## 「不安定な子」報告相次ぐ

東日本大震災の被災地では、震災から九年を過ぎた今も、「落ち着かない」といった不安定な子どもの報告相次いでいる。震災発生後、震災直後経験していない子どもの語弊の発症も一時に児童環境の変化により、家族が子どもと触れ合う時間が少なかったことが影響し、可能性があると分析。災害後の育環境を長期的に支える必要性が示される。

宮城県内の養育者や児童福祉士の調査で、保育指図などの心理教育、地域の育環境の質が影響を及ぼしている可能性が指摘されている。震災発生後、養育環境が震災以前と異なる場合、子どもの育環境が不安定になり、不安定な子の発生率が高まることが示された。震災発生後、児童の育環境が不安定になり、不安定な子の発生率が高まることが示された。



大きな災害では、大人だけでなく子どもも大きなダメージを受ける。家族を亡くして深い心の傷を負ったり、仕事や家を失い気持ちに余裕のない親の影響を受けたりすることもある。災害後に子どもが抱える心の傷やその後の影響、ケアの重要性について、東日本大震災の被災地で子どもたちに関わってきた専門家に話を聞いた。

## 遺児交流 寄り添う「家」



あしなが育英会の「レインボウハウス」

「子どもたちが来て、まず自己紹介をみんな集まって、自己紹介から自由に遊ぶ。その後、あしなが育英会は、一九九五年に設立した「レインボウハウス」には、のほかに、サドハツが、あしなが育英会と連携して、被災地の子どもたちと交流する機会を設けている。あしなが育英会は、一九九五年に設立した「レインボウハウス」には、のほかに、サドハツが、あしなが育英会と連携して、被災地の子どもたちと交流する機会を設けている。

## 歴史に学ぶ 大地震と「四日市港の恩人」

三重県四日市の「JR四日市駅前」に立つ「四日市港の恩人」の銅像。これは、明治三十四年（一九〇一年）に発生した四日市港の大火災で、港の規模拡大のために犠牲となった犠牲者を追悼するものだ。銅像は、四日市市の歴史を伝える重要な遺産となっている。



稲葉三右衛門の像の前で震災との関連を語る廣瀬毅助館長＝三重県四日市市のJR四日市駅前

「備える」は毎月1日曜日に掲載予定。次回は6月1日です。

開かれるのが良かった。その思いをフアンシテーターに話して、すこし心がすっきりした。」「(中)女子、「僕たちだけでなく、いろんな人が悲しみを分かち合いたい。」「(中)男子、などの感想が遺児から寄せられた。保護者も、「私一人では子どもたちの気持ちをうまく伝えることができません。」「(中)男子、などの感想が遺児から寄せられた。保護者も、「私一人では子どもたちの気持ちをうまく伝えることができません。」「(中)男子、などの感想が遺児から寄せられた。保護者も、「私一人では子どもたちの気持ちをうまく伝えることができません。」「(中)男子、などの感想が遺児から寄せられた。保護者も、「私一人では子どもたちの気持ちをうまく伝えることができません。」